

平成 24 年度通常（第 2 回）理事会議事録

日 時： 平成 24 年 9 月 8 日（土） 11：00～16：00

場 所： BumB 東京スポーツ文化館 1 階マルチホール

出席理事：（敬称略、順不同）

河野博文、西岡一正、植松眞（委任：河野博文）、森山雄一、中川千鶴子、前田彰一、児玉萬平、鈴木修、斎藤渉、鈴木國央、山田州子、末木創造、松原宏之、中澤信夫（委任：児玉萬平）、餅啓一、相澤孝司、平井昭光、森信和、坂谷定生、高間博之、山本嘉一（委任：鈴木國央）、守本孝造、井川史朗（委任：河野博文）、斉藤修、吉留容子、剝岩政次

以上 26 名、委任状 4 名

出席監事：栗原博、中村隆夫

以上 2 名

欠席監事：浪川宏

オブザーバー：永井真美環境委員長、増田開ルール委員長、中村健次オリンピック特別委員長、小山泰彦指導者委員長、斉藤威普及委員長、鈴木保夫外洋総務委員長、大坪明外洋安全委員長、林賢之輔外洋計測副委員長、豊崎謙広報委員

議事の経過及び結果

（定足数の確認）

理事 26 名、出席者 22 名（内、委任状 4 名）により、定款 34 条に基づく定足数を充足しており、本理事会は成立した。

（議長による開会宣言）

定款 33 条に基づいて、河野博文会長が議長となり、平成 24 年度通常（第 2 回）理事会の開会を宣言し、議事進行を前田彰一専務理事に委任した。

（議事録署名人）

本理事会の議事録署名人として、議長指名により、斎藤渉、高間博之の両理事が任命された。

河野会長から、ロンドン五輪はメダル獲得を期待されたが、入賞も果たすことができなかった。今後の体制・方向については忌憚のないご意見をいただきたい。ユース制式艇導入は進んでいるが、連盟として全力で資金集めをしていきたい。ロンドン五輪では観客を集客に大成功したことを受けて、東京招致においても大観衆を集める努力をしたい。ぎふ清流国体、東京リハーサル国体および秋の全日本シーズンとなる。なお、重要案件につき、審議をお願いしたいとの挨拶があった。

< 審議事項 >

1) オリンピック特別委員会委員長交代

河野会長から資料に基づき、オリンピック特別委員会委員長の交代について説明があった。

オリンピック特別委員会委員長を中村健次氏より副会長の西岡一正氏へ交代する。ロンドン五輪に新体制オリンピック特別委員会で臨んだが、期待した結果が得られなかったことは残念であった。今後、次回リオデジャネイロ五輪に向けて新たな体制を検討した結果、これまでの経験等から現時点での適任者として委員長を西岡一正副会長とする。今後の選手の動向や JOC 専任コーチ他の継続などの体制も検討・組織していただくとの発言があった。

西岡副会長から、現在コース制式艇プロジェクトに取り組みながら、470 級のオリンピック選手を育ててきたが、今後のオリンピック特別委員会の取り組みとして、ユース世代を含めた長期的視野にたって取り組んでいく。次期オリンピック選手・チームを育てていく。オリンピック特別委員会活動を理解していただくようにするとの挨拶があった。

満場一致で承認された。

2) JSAF 定期表彰

鈴木常務理事から資料に基づき、平成 24 年度定期表彰に係わる受賞候補者推薦依頼について説明があった。

平成 24 年度定期表彰は、平成 25 年(2013 年)1 月 26 日に開催予定の全国加盟団体代表者会議において挙行予定としている。平成 24 年度定期表彰受賞候補者推薦書の提出期日を平成 24 年 11 月 30 日(金)を期限としてとして、各加盟・特別加盟団体ならびに委員会へ推薦依頼する。なお、表彰対象期間は平成 23 年 12 月 27 日から平成 24 年 11 月 30 日とする。

また、第 67 回国民体育大会開催協力に対する感謝状について、国体委員会の推薦に基づき 4 団体へ感謝状を授与するとの発言があった。

満場一致で承認された。

3) 資格認定料金変更および NJ/NU 規程改定

増田ルール委員長から資料に基づき、資格認定料金変更および NJ/NU 規程改定について説明があった。

前回理事会において、JSAF ナショナル・レース・オフィシャルズ資格認定料等について、レース・ODC 計測・ルールの 3 委員会が所管する資格の整合性を目的として見直しを行っているとの背景を説明した。今回の NJ/NU 規程改定は、資格認定料の見直し、受講料の見直し、認定証発行(事務手続き)方法の見直しについて整理した。本年 12 月か

ら予定されている更新講習から改定規程を適用する。

また、日本セーリング連盟規程 4 [規則 76] の見直しをルール委員会で検討することの動議を提出する。これは、RRS76：艇または競技者の排除の 76.1 が変更されることに対応した処置であるとの発言があった。

NJ/NU 規程改定は、承認された。

JSAF 規程 4 の一部修正は、基本ルール委員会に一任するが、理事会へ報告することで承認とする。

4) 資格認定料金変更およびレースオフィサー規程改定

松原理事から資料に基づき、レースオフィサー規程及びレースオフィサー制度事務取扱要領の改訂について説明があった。

改訂の理由は、公益財団法人への移行に伴うもの、講習料・認定料について、ODC 計測・ルール委員会との整合性ならびに受講者の負担軽減を図る、資格更新手続の簡素化を図ることである。主な内容は、第 6 条：レースオフィサー名簿への登録における公示方法を JSAF 公式ホームページ公示に変更、第 8 条 1 項：更新のための要件を簡素化、第 8 条 5 項：更新時における認定証の廃止との発言があった。

満場一致で承認された。

5) 資格認定料金変更および公式計測員規程改定

前田専務理事から ODC 計測委員会提出資料に基づき、資格認定料金変更及び公式計測員規程改定について説明があった。資格認定料金変更とそれに伴う公式計測員規程の改定との発言があった。

満場一致で承認された。

< 協議事項 >

1) ユース制式艇 420 級購入寄付募集

西岡副会長から資料に基づき、高校総体および国体少年種目変更のための練習艇 (420 級) 購入資金援助のお願いについて提案があった。

現在、ユース制式艇種委員会は、高校総体 (インターハイ) および国体の少年 2 人乗り種目を「国際 420 級」に変更・統一するための資金を募集している。インターハイと国体の種目が異なっていることから、種目を統一することで各高校ヨット部の経済的負担を軽減する。高体連に加盟している高校ヨット部に所属していないユース世代のため

に、都道府県連の協力を得て420級を貸与することにより環境を整備する。現在、高体連に加盟する高校ヨット部123校に、420級1艇を無償もしくは一部負担で提供することで、高校ヨット部の経済的負担を軽減することとした。

そのために概算で6千万円必要となり、一部はJSAF資金でその他を関連団体や企業からの寄付をいただいたとしても、2千万円の不足相当分が必要となる。「高校生に420を!」を呼び掛け、420級艇購入資金援助をJSAFメンバー各位に、JSAF-Web募金専用サイトから申し込みできるようにする。また、企業各社への寄付依頼には免税措置もできることの記載をするとの発言があった。

児玉常務理事から、JSAFホームページから募金専用サイトバナーを作成した。免税措置の記載はしてある。イベント報告などもWEBサイトに掲載できる。外洋加盟団体でも寄付依頼をするとの発言があった。

西岡副会長から、都道府県にはすでに募金協力依頼をしていることから、今回は個人ベースでの寄付募集が趣旨であるとの発言があった。

守本理事から、企業各社への寄付依頼は免税措置できることの強いアピールが必要である。「高校生のため」の目的寄付とするなどを考慮するべきであるとの発言があった。

森山副会長から、大学OB会への寄付を依頼するとの発言があった。

河野会長から、役員・大口企業・メンバー各位の協力をお願いしたいとの発言があった。

2) JSAF 規程見直し

鈴木常務理事から資料に基づき、公益法人移行に伴うJSAF諸規程の整備状況等について提案があった。

公益財団法人移行時に新定款を制定したことに伴い、従来旧寄付行為の下に制定されていた下位規程等の新設・見直しを行う。新公益法人制度では、内部統制関係(情報公開、個人情報管理、リスク管理、コンプライアンス、公益通報者保護等)諸規程の整備が要請されているため新設する。また、所轄委員会が明確な規程等については、当該委員会に現行諸規程の見直しを依頼している。次回理事会で、JSAFホームページへの掲載の要否も併せて検討審議とするとの発言があった。

増田ルール委員長から、今回改定承認いただいた「ナショナルジャッジ、アンパイア規程」は公示することは問題ないかとの発言があった。

平井理事から、リスク管理、コンプライアンス等の規程作成では、企業では組織で検討するが、連盟内委員会を設定するののかとの質問があった。

前田専務理事から、原案は公益法人ガイドラインに沿って作成している。新規程で問題が生じた時は、総務委員会か理事会で対応する。また、「監事監査規程」は監事各位に確認していただきたいとの発言があった。

また、鈴木常務理事から資料に基づき、JSAF 本部受付が可能となった会員および艇登録実施に関する検討状況について報告があった。

現在、JSAF メンバーおよび外洋艇の本部登録の実施について検討している。本部登録に関する考え方と対象者の明確化、規定化、細則化、本部受付業務体制の構築、加盟団体の同意、当該業務の外部委託等を検討している。理事各位からのご意見をいただきたいとの発言があった。

相澤理事から、本部登録が可能となる根拠はとの質問があった。

鈴木常務理事から、公益法人化において定款上で本部登録が可能となっている。現在の JSAF メンバー登録業務は、加盟・特別加盟団体からとしていることから、本部登録はメンバー費を高く設定することも総務委員会で考えているとの発言があった。

斉藤修理事から、JSAF-WEB サイトは JSAF メンバー会費 6500 円となっており、加盟団体徴収額との整合性がないと質問があった。

前田専務理事から、JSAF-WEB サイトからの登録は、所属する団体へ案内され、団体から入会者へ団体徴収額が指定されるシステムになっているとの回答があった。

坂谷理事から、本部登録業務の主旨として、JSAF 事務局でメンバー登録を掌握・管理できるのか確認したいとの発言があった。

児玉常務理事から、地域と関係ないメンバー登録料金は 6500 円としていただきたい。海外在住でもメンバー登録できるようにしていただきたい。企業社員のメンバー登録対応も検討していただきたいとの依頼があった。

河野会長から、本部登録は JSAF サポーターメンバーなどを入会させることも目的として考慮していただきたい。本部登録料が高く設定されると困難になるのではとの発言があった。

鈴木國央理事から、和歌山県連では団体加盟会費を徴収していない。メンバー手続業務が県連として面倒なので本部へ依頼することは可能かとの質問があった。

児玉常務理事から、メンバー登録業務の事務代行と理解できる。しかし、JSAF 事務局本部に事務代行機能があることが条件になるとの発言があった。

森理事から、いずれにしても JSAF 事務局の事務力が必要である。いままでのクレームはメンバー証遅滞が原因であったとの発言があった。

児玉常務理事から、メンバー証と J-SAILING は遅滞なく発送することは前提条件だが、郵送コスト等を考えると J-SAILING の PDF 配信等も考慮していただきたいとの発言があった。

平井理事から、本部登録を可能とした場合、予算と人的なものを明確にいただきたいとの発言があった。

前田専務理事から、登録事務手続きのみならば週 1 回のアルバイトで対応できるが、

メンバー登録の問い合わせ及びクレーム対応が多く困難である。本部登録業務体制と予算は今後の課題とするとの発言があった。

坂谷理事から、メンバー増強委員会でアンケートを行っているが、特別加盟団体に認可された後メンバーがゼロの団体が多いが、JSAFとしてメンバー数を確認しているのか質問があった。

鈴木常務理事から、総務委員会、会員増強プロジェクトでも把握していない。メンバー重複のケースもあるので検討したい。委員会委員名簿には JSAF メンバー番号を記載させるようにしたとの発言があった。

児玉常務理事から、特別加盟団体のメンバー数を毎年確認することが必要であるとの発言があった。

森理事から、特別加盟団体クラス協会は重複してメンバー登録しているケースが多いとの発言があった。

鈴木常務理事から、会員増強プロジェクトから各団体メンバー窓口と密に連絡している。メンバー登録数が極端に減少している団体は現況を連絡いただきたい。今後も会員増強プロジェクトで検討するとの発言があった。

3) 国体一人乗りクラス艇種変更

末木国体委員長から資料に基づき、国体成年男子・女子種目一人乗りクラスの艇種の変更について提案があった。

国体少年男子・女子の各種目につき、二人乗りクラスは国際 420 級、一人乗りクラスはレーザーラジアル級の採用が理事会で決議され、平成 27 年和歌山国体から導入を目標に調整・艇準備を進めている。変更に際して都道府県にアンケート調査を実施したが、6 月評議員会で意見がでた「国体成年男子・女子種目一人乗りクラスの艇種」の変更についても調査した結果、成年男子・女子ともに変更すべきが 62%、内 79%が和歌山国体から変更するべきと回答を得た。国体委員会の総括および方向は、成年男子一人乗りクラスをシングルハンダー級からレーザーに、成年女子一人乗りクラスをシーホッパーSR からレーザーラジアル級に変更する。採用時期は、2015 年和歌山国体からの採用に賛成が多いが、都道府県連の経済的負担を考慮して、日体協協議、次回理事会審議を経て、年内に正式申請するとの発言があった。

森理事から、現行の採用艇から 6 種目の艇変更を考えると、都道府県連の経済的負担などで艇が揃えられないことで不参加の事態を招かないようにするには、採用時期が課題であるとの発言があった。

鈴木國央理事から、シングルハンド級がレーザー級へ変更することは、艇体共有ならびに成年と少年の共有できることで賛成できる。艇購入の経済的問題では、成年男子では多くは個人所有している。和歌山県連としては採用時期を決定いただけないのが問題

になるとの発言があった。

河野会長から、420 級導入の経済的負担とは事情が異なるのではないかと。常任委員会での議論は、和歌山国体からでも採用時期は遅いのが実態ではないかとの発言があった。

西岡副会長から、経済的負担により問題が発生する都道府県連には援助できるか考慮したいとの発言があった。

河野会長から、国体成年男子・女子種目一人乗りクラスの艇種変更の採用時期は、2015 年和歌山国体からとすることを理事会の意向とするとの発言があった。

4) 外洋艇登録規則改定

鈴木保夫外洋総務委員長から資料に基づき、外洋艇登録規則改定について提案があった。

今回の改定は、現在、艇の登録申請場所（第 7 条）は所属の加盟団体に限られていたが、JSAF 事務局直接登録もできるようにした。また、艇登録業務を WEB 上で可能とするようにした。過去に発行されたセール番号において、抹消及び現状使用されていないことが確認できた番号については、再発行することができる（第 12 条 3 項）との発言があった。

児玉常務理事から参考資料に基づき、艇登録 WEB サイトについて報告があった。現在、運用している艇登録 WEB サイトを一部改訂した。改訂のポイントは、業務の流れに沿った解説と作業画面を一体化させた。艇登録業務、支援艇登録業務、艇登録証発行業務に加え、新たに艇登録証発行業務をできるようにした。また、外洋艇情報サイト「On Breeze」からの外洋艇登録と外洋艇データの開示をする。開示にあたって、外洋艇登録一覧にオーナー氏名を掲載するかは、登録艇各位から開示承認依頼ハガキを出して、承認をいただいた方のみ掲載するとの発言があった。

西岡副会長から、旧 NORC エンサイン旗を積極的に使用できるようにすれば登録艇が増加するのではないかと。の発言があった。

鈴木國央理事から、外洋艇登録または支援艇登録をしないと、国際 VHF は使用できないのかとの質問があった。

平井理事から、海岸局加入証明発行手数料の無料キャンペーンは時限であったと理解しているが、艇登録 WEB サイトの艇登録証発行業務内の文面の訂正が必要であるとの発言があった。

林外洋計測副委員長から、外洋艇登録規則を改定して、今後の登録艇増加の見込み数を示していただきたいとの発言があった。

児玉常務理事から、まずはセールナンバーを掲示して帆走している非登録に登録を促す啓発活動としたい。JCI 登録 12000 隻への登録は今後課題とさせていただきたいとの

発言があった。

< 報告事項 >

1) 連盟登記完了報告

前田専務理事から資料に基づき、連盟登記完了について報告があった。

5月25日及び6月16日の理事会で決定した従たる事務所の廃止ならびに新役員を渋谷法務局にて登記を完了したとの発言があった。

2) 東北ユース・サンフランシスコ派遣報告

森山副会長から資料に基づき、東北被災地高校生セーラーのサンフランシスコ交流報告があった。

東日本大震災で被災した東北3県(岩手県・宮城県・福島県)の高校ヨット部の生徒が、サンフランシスコのセーラーと交流を行うことで、世界に広がる復興支援の輪を体験し、高校ヨット部の早期復興と活性化につなげることを目的として、8月9～19日の10日間、宮古商業高校6名と引率者1名をサンフランシスコ(リッチモンドヨットクラブ)に派遣した。シリコンバレーセーリングクラブ、JSAF、東北セーリング連盟が主催し、協賛5社からの協賛金をいただいた。活動報告はテレビやJSAFホームページで公表された。ユースセーラー支援をすることでセーリングの輪を拡大できたことは有意義であったとの発言があった。

3) ロンドンオリンピック報告

中村オリ特委員長から資料に基づき、ロンドン五輪競技大会の日本セーリングチーム活動ならびにレース結果について報告があった。

7月30日～8月8日の10日間、英国・ウェーマスで開催されたロンドン五輪セーリング競技は、風に恵まれ予定通りに行われた。セーリング日本代表監督しての報告は、J-SAILING誌上で掲載したが、10月中には選手・役員からの報告を受けて、課題を抽出し、総括として報告する。今回の日本チームの結果は、470級男女は想定外、その他のクラスはほぼ実力の範囲内で終わったと言い切ることができる。目標とした470級女子メダル獲得と470級男子を含めた複数種目の入賞に近い成果を上げられなかったことは謙虚に反省する。470級女子に限って言及すると、五輪本番で落ち着き過ぎていて、元気がないように見えたこと、第3レースでのメインセール落下があったこと、第8レースでのブラジル艇からの抗議でDSQとなったことなどが挙げられる。サポート体制は、多くのチーム・選手は所属企業に恵まれた活動環境であり、マルチサポートの支援も受け最高のコンディションで戦うことができたことは感謝を表したい。最後に、次回五輪に向けて、メダル獲得のためのセーリング界の強化は、選手自身の強化に併せて指導者の

レベルアップが不可欠であるとの発言があった。

小山オリンピック招致事務局長から資料に基づき、東京オリンピック・パラリンピック招致委員会報告があった。9月25～27日、ISAFから2名による現地視察が予定されている。ロンドン五輪で海面近くに観覧席を設置したことが成功したことから、東京にも同様の観客を集客できる計画を求めているとの発言があった。

森山副会長から、2020年オリンピック開催地決定1年前のイベント報告があった。

4) ISAF 委員候補およびオリンピック艇種

前田専務理事から国際委員長からの提出資料に基づき、ISAF委員会候補者ならびにオリンピック種目と艇種の選定について報告があった。

今期任期満了に伴うISAF委員会委員について推薦委員会で、大谷たかを氏、小林昇氏、柴沼克己氏、堤智章氏、田中正昭氏、増田開氏の6名の推薦候補者を選定・提出した。また、オリンピック種目と艇種の選定について、5月ミッドイヤーミーティングにおいて、2016年オリンピック艇種を10種目に決定したが、ウィンドとカイトボードの種目選定において議案の決議内容に疑義があり係争中となっている。11月ISAF総会で再議論し、選定決議される予定であるとの発言があった。

5) ルール委員会

増田ルール委員長から資料に基づき、ルール委員会報告があった。

「和歌山インターナショナルレガッタ2012」につき、アデンダムQの使用についての承認申請があり、審査の上で承認可と判断した。「江ノ島オリンピックウィーク2012」ならびに「和歌山インターナショナルレガッタ2012」のインターナショナル・ジュリー（IJ）の選任について、大会主催団体からの要請に基づき構成したとの発言があった。

6) レース委員会

末木IRO候補者推薦委員会委員長から資料に基づき、インターナショナル・レースオフィサー（IRO）推薦について報告があった。

2012年度に提出されたIRO推薦申請について、IRO候補者推薦委員会として、岡田彰氏（愛知県ヨット連盟）を推薦することを決定した。また、全日本大会のJSAF共同主催・公認・後援などの現状について発言があった。

7) IM セミナー報告

前田専務理事からODC計測委員会提出の資料に基づき、ISAFインターナショナル・メジャー（IM）セミナーについて報告があった。

8月30日～9月2日の4日間、葉山港において、ISAF組織であるIMSC（国際計測員

小委会)から講師 2 名が日本に派遣され、対訳テキスト使用による講義、セールおよび艇体計測の実技および英文筆記試験が実施されたとの発言があった。

河野会長から、今後 JSAF が国際的アプローチをする上で、本セミナー開講の意義はあった。特に、海外や外洋系受講者がいたことは収穫であったとの発言があった。

8) 外洋艇推進グループ報告

児玉常務理事から資料に基づき、外洋委員会ならびに外洋レース等について報告があった。

坂谷理事から、外洋東海等が中心となって開催された全日本ミドルボート、第 53 回パールレース、及びジャパンカップについて報告があった。

大坪外洋安全委員長から、「2012 秋の安全週間 (9 月 1 日～9 日)」の案内があった。今年度から春と秋の年 2 回に「安全週間」を設け、ライフジャケット着用の呼びかけをするとの発言があった。

林外洋計測副委員長から、IRC 申請の推移に関して毎年順調に申請数が増加していると報告があった。

児玉常務理事から、外洋計測委員会から技術担当の角氏を ISAF 総会に派遣して技術面で対応させたいとの推薦があり、了承いただきたいとの説明があった。

9) ロンドン五輪壮行会報告

中川副会長から資料に基づき、ロンドン五輪壮行会の報告があった。

6 月 29 日(金) 帝国ホテルで開催されたロンドン五輪代表選手団壮行会の収支報告があった。オリジナルポロシャツ寄付金などの余剰金は、オリンピック特別委員会に繰り入れる。将来が期待される若手の選手を招待できたことなど、ご協力いただきました各位に感謝するとの発言があった。

10) 平成 24 年度予算管理月報

斎藤財政委員長から資料に基づき、平成 24 年度 7 月末予算管理月報について報告があった。公益法人移行に伴う会計システムについて検討しているとの発言があった。

11) 平成 24 年度定時評議員会議事録(案)

前田専務理事から資料に基づき、平成 24 年度定時評議員会議事録(案)について報告があった。

12) 平成 24 年度通常第 1 回理事会議事録(案)

前田専務理事から資料に基づき、平成 24 年度通常第 1 回理事会議事録(案)について

報告があった。

13) メンバー登録 8 月末実績数報告

鈴木常務理事から資料に基づき、平成 24 年 8 月末のメンバー登録実績について報告があった。前年度比で大幅に減少している団体に検討の依頼があった。

14) その他

前田専務理事から、ロンドンパラリンピック・セーリング競技の経緯と現状について報告があった。また、コーチとして参加した石津事務局員より現地状況について報告があった。

前田専務理事から資料に基づき、9 月末に開催される第 17 回 2012 横浜フローティングヨットショー開催について紹介があった。

増田ルール委員長から資料に基づき、2013 新ルールブック邦訳版の加盟・特別加盟団体による事前予約一括購入の予約を 9 月 23 日まで延長する。各団体のご協力をいただきたいとの発言があった。

平成 24 年度通常(第 2 回)理事会は、上記の通り議決ならびに承認されたことを確認し、議事録署名人は以下に記名・捺印する。

平成 24 年 9 月 8 日

議 長 会 長 河 野 博 文

議事録署名人 理 事 斎 藤 渉

議事録署名人 理 事 高 間 博 之

副 会 長 西 岡 一 正

副 会 長 森 山 雄 一

副 会 長 中 川 千 鶴 子

専 務 理 事 前 田 彰 一

常 務 理 事 児 玉 萬 平

常 務 理 事 鈴 木 修

監 事 栗 原 博

監 事 中 村 隆 夫